

2 本年度学校教育の努力点とその推進計画

1 本年度努力点テーマ

仲間と対話し、学び合う東っ子の育成

～伝え合う力の育成に焦点を当てて～

2 基本的な考え

GIGAスクール構想により、児童1人1台のタブレット端末の整備がなされたこともあり、近年はICTを活用した授業改善に力を注いできた。それぞれの学年の発達段階に合わせてタブレット端末を用いた授業に取り組んだ結果、児童が機器の操作に慣れることで、効果的に学習に活かすことができるようになってきた。

一方で、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、他人との直接的な関わりに制限ができてしまい、授業の中だけでなく、様々な場面において話し合う活動が減ってしまった結果、「発表や発言の場面で消極的である」「自分の思いや考えを言葉で伝えられない」「ミスコミュニケーションが原因となる児童間トラブルが起こる」ということが課題としてある。本校では、3年計画でこれらの課題を踏まえ、次のような研究に取り組む。

1年目： 伝え合う力の育成
2年目： 「対話」を通じた合意形成 ～折り合いをつける～
3年目： 「対話」を通じた合意形成 ～新たな概念を生み出す～

3 研究の方針

研究1年目の今年度は、「対話」を成立させるための、伝え合う力の育成に焦点を絞る。自分の意見を伝えたり、相手の意見を適切に理解するために質問したりすることの「話すこと」、相手の意見を「聞くこと」は、「対話」における基本スキルとし、国語科で培うこととする。

「対話」における基本スキルを身に付けたところで、話し合い活動に慣れ親しみ、発表や発言の場面における苦手意識を払拭しつつ互いの意見や価値観を誤解することなく正しく理解し合うための伝え合う力を育成することは、学年の実態に応じて、様々な教科領域で実践を行っていく。

どのような手立てが、「対話」における基本スキルを身に付けることに有効であるか、また、どのような手立てや授業展開が話し合い活動に慣れ親しみ、発表や発言に対する苦手意識を払拭して、自分の考えを表現することに有効であるのかを本研究で明らかにしていく。

4 研究の計画

(1) 子どもの実態把握

- 学級の実態把握をする。(4月末～5月)
- 実践前後の変容調査をする。(随時)
- アンケート調査を活用し、できる限り数値で捉える。

(2) 実践の計画

- 実態をもとに、学年の教科(前期は国語科、後期はその他教科、領域)、めあて、手立てを決める。(5月)
- 年間計画を立てる。(5月)

(3) 授業実践(学年の年間計画作成後5月～1月)

- 教科については、前期は「対話」におけるスキルを身に付けるために国語科で実践を行う。後期は、話し合い活動に慣れ親しみ、発表や発言の苦手意識を払拭するための授業実践を、学級や学年の実態、教科指導の内容などに合わせて、様々な教科、領域から決める。
- 横断的・総合的に取り組める内容であるとよい。

※ 一時期に授業実践が集中するのを防ぐため、前期は、5月中旬、後期は、10月中に授業を行う時期を決定する。

(4) 研究の評価(年間)

- アンケート調査、QUの活用、ラポールタイムの面談などを活用し、意識の変容を捉える。
- 日頃の生活の様子から変容を捉える。
- 中間報告(10月)、最終報告(2月)に向けて評価を行う。

(5) 公開授業について

- 授業実践
 - ・ 授業は各学年の代表者が前期・後期各1名ずつ行い、前期・後期は、別の実践者にする。
 - ・ 学年で授業体制を工夫し、他学年の授業実践を参観する。事後検討会は、各学年部会と参観者で行い、参加できない場合は、紙面や口頭で伝える。
 - ・ 指導案は学年で検討し、実践の2日前までに全職員に配布する。
 - ・ 授業の日程や詳細が決まったら係と教務に伝える。(1週間前までに)
 - ・ 教科専科・栄養教諭・養護教諭は、対象学年を選択し、研究に関わる。
 - ・ 指導案(略案)は「授業づくりハンドブック」を参考に作成する。
 - ・ 指導案の中に、「努力点とのかかわり」という項目をつくり、導入、提示の工夫、対話のさせ方、評価など、本時の授業でどのような効果が期待されるのか、授業で検証する内容を書く。
 - ・ 授業実践は、他クラスで実施したり、まとめを各項目(実態や手立ての有効性、学年のまとめなど)で分担したりするなどして、学年全体で一つの実践をつくりあげるように取り組んでいく。

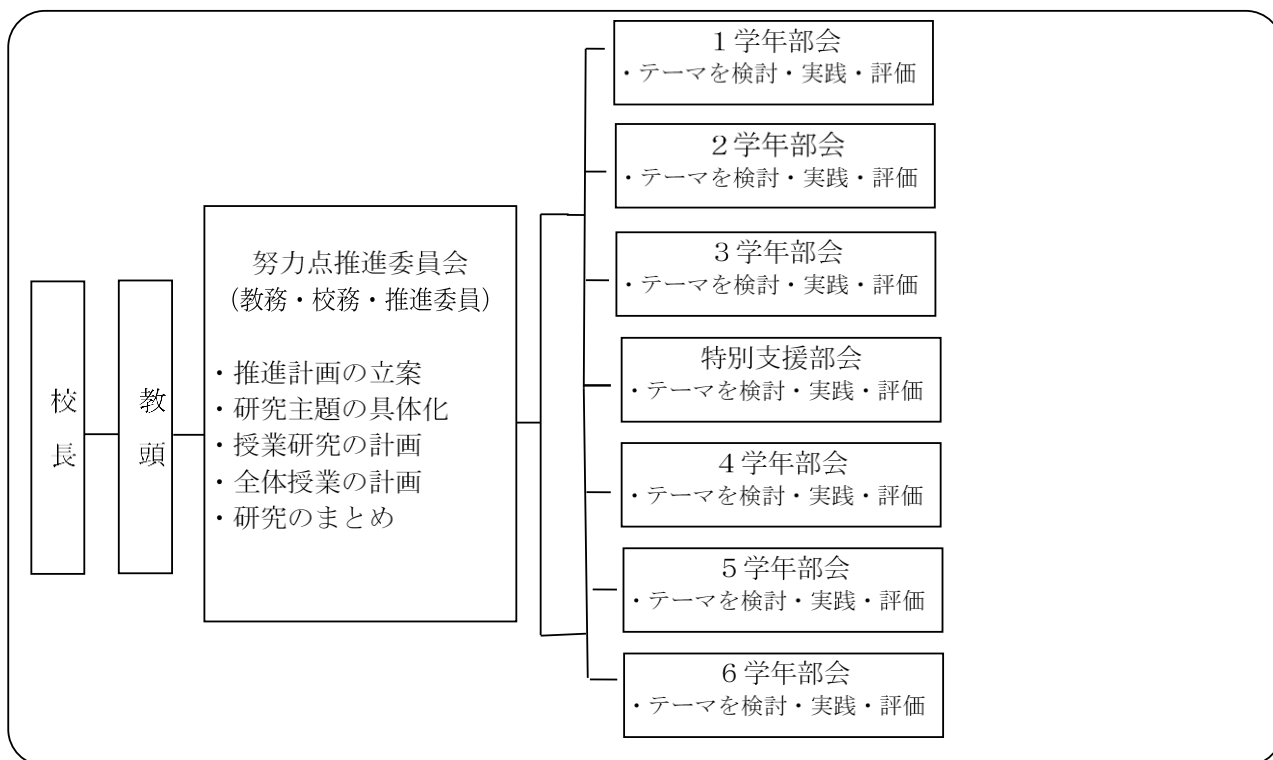
5 組織

〈努力点推進委員会〉

教務、校務、各学年の努力点推進委員で組織し、研究の方向性や推進方法について協議する。

〈全体会〉

全教職員で構成し、実践についての共通理解や、報告や情報交換などを行う。



6 年間計画

時 期	全体での取り組み	
1 学期	全体会 (4月) …主題及び推進計画 実態調査 (4～5月) …アンケートや学級の実態調査により、実態をつかむ 研究計画書 (5月) …学年ごとに年間計画を立てる <u>(5月末日までに)</u> 各学年で前期授業検討 (5月～7月) …事前・事後検討会	
2 学期	中間報告書 (9月) …中間報告書作成 <u>(9月末日までに)</u> 中間報告会 (10月) …9月までの実践を報告 各学年で後期授業検討 (10月～12月) …事前・事後検討会	5月～9月の間に、各学年の前期授業者が授業を行う。
3 学期	実態調査 (1月) …アンケートや授業実践の結果等により実態をつかむ 最終報告書 (1月) …最終報告書作成 <u>(1月末日までに)</u> 最終報告会 (2月) …本年度の成果と課題を検証 推進委員会 (3月) …次年度に向けて検討	10月～1月の間に、各学年の後期授業者が授業を行う。